

1. 取り組みと概要

小玉 敏也

2019年度は、(1)遠山地区の小・中学校の児童生徒を対象にした4大学の学生によるESD塾の取り組み、(2)飯田市の高等学校と大学生の共同的な学習活動「遠山郷スタディ・ツアー」の取り組み、(3)遠山地区と千代地区の保育園を中心とした幼児教育に関する取り組みを行ってきた。いずれも、飯田市遠山地区（通称「遠山郷」）を学習の場とした取り組みである。

その特長は、(1)(2)については、①市役所、教育委員会、公民館、学校、地域団体、ESD研究所の協働プラットフォームを基盤として、地元の小中学生・高校生と飯田市外の大学生が共に学ぶ機会を創り出したこと、②遠山郷の地域資源に関する学習を通して、地元の児童生徒と大学生は地域の価値と課題と可能性を実感できたこと、にある。(3)については、市役所と公民館、2保育園、ESD研究所の協力関係のなかで、いいだ型自然保育の内容、保育者研修、小学校との接続、少子化への対策等の具体的な取り組みと検討がなされていること、にある。

上記(1)は2018年度以前にはなかった初めての取り組みで、(2)(3)はそれまでの取り組みに比べて着実な進展が見られ、両者ともに2020年度以降の取り組みにさらなる発展を期待することができる。

(こだま・としや 麻布大学教授／立教大学ESD研究所客員研究員)